

アクティブ・ラーニング ノ ススメ in かがわ

アクティブ・ラーニングで 教師・学校・社会をつなごう！

- 1 学校と社会を“学び”でつなごう！
- 2 各学校種間で学び方をつなげよう！
- 3 教師もアクティブ・ラーニングでつながろう！



1 学校と社会を“学び”でつなごう！

児童生徒が自らの生涯を生き抜く力を培っていくためにも、学校を変化する社会の中に位置付け、“学び”の在り方をアクティブ・ラーニングの視点から共有し、学校種間、学校間で連携・接続していくことが大切です。

学校は社会の一部として機能する ～ 学校と社会の接続 ～

学校は、児童生徒にとって未来に向けた準備段階の場であると同時に、現実の社会とのかかわりの中で、毎日の生活を築き上げていく場でもあります。

そのため、学校は、児童生徒一人ひとりの可能性を伸ばし、社会や職業で必要となる資質・能力を育むために、**学校と社会の接続**を意識した授業改善を進めていきましょう。



アクティブ・ラーニングの視点からの授業実践を共有する

県内外のアクティブ・ラーニングの視点からの授業実践の成果を、自校における**教師の学び合いを基調とした授業研究**に生かし、実践につなげましょう。さらに、その実践を、**学校種間（小中、中高、高大）で共有**し、児童生徒が学習方法や学習内容を積み重ねられるようにしましょう。

そのことが、児童生徒の生涯にわたって学び続けたり、主体的に考えようとしたりする姿につながっていくことでしょう。

アクティブ・ラーニングの視点からの不断の授業改善を！

児童生徒の発達段階を踏まえつつ、次の3つの視点から、教師自身が学習過程全体（習得・活用・探究）を見渡し、指導方法を不断に見直し、改善していきましょう。

① 深い学びの過程の実現

- ☒ 資質・能力の3つの柱※で示す力が総合的に活用・発揮される場面（関連付ける、説明する など）を設定していますか。

〔教える場面と、思考・判断・表現させる場面を効果的に設定し、関連させながら指導することが求められています。〕

※資質・能力の3つの柱：「個別の知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」



【坂田市立坂出小学校】

② 対話的な学びの過程の実現

- ☒ 多様な表現を通じて、教師と子ども、子ども同士が対話していますか。

〔身に付けた知識・技能を定着させるとともに、それらが多面的で深い理解につながるように、対話的な学びによって、自らの考えを広げ深められるように指導することが求められています。〕

③ 主体的な学びの過程の実現

- ☒ 実社会や実生活に関わる主題に関する学習を取り入れ、学びに向かう力を刺激していますか。

〔学習に興味をもって積極的に取り組ませるとともに、見通しをもって粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげることができるように指導することが求められています。〕

2 各学校種間で学び方をつなげよう！

現在、多様な他者との学び合いを通して深い理解を促す学習が求められています。このような学び方は、**各学校種で繰り返し実践されるとともに**、児童生徒の発達の段階※を踏まえ、**校種間でつながり積み重ねられる**ことによって、より確かなものになります。

※文部科学省「言語活動の充実に関する指導事例集」（小学校版 平成23年10月、中学校版 平成23年5月、高等学校版 平成24年6月）

「相手の考えを真摯に聞き、応答する」学びを積み重ねる

どの校種においても、学び合いが児童生徒にとって価値あるものにするためには、聞く側が相手の思いや考えに対して、**どのように聞き応答をするのかがポイント**です。そのために教師自身も児童生徒の言葉をよく聞き、「その理由は？」等と問い返し、自然な対話を促します。決して話型※に沿うことを目的とするのではなく、**相手の話をよく聞き応答すること**で、学びが深まっていく面白さを実感できるようにしましょう。

※話型：子どもたちが話し合いをするために学校や学級で決めた文型（例：「私は～だと思えます。わけは～だからです。」）

どの校種も大切にしたい「問い返し」のある学び合い！！

【双方向型の学び合い】

「深く考え、自ら解決したくなる課題」
「集団で解決する必要がある課題」
を設定していますか？



相手に寄り添う応答

話をうなずきながら聞いたり、互いの意見を認め合う発言をしたりする等、相手の考えに対して**共感的に応答する態度**を大切にすることで、安心して発言できる学級の風土をつくりまします。

自他の差異に気付き、問う

「どうして?」と**理由や根拠を問いたくなる**には、自他の考えが比べられるように、それぞれの考えを可視化することが有効です。ミニホワイトボードを活用することも効果的です。

こう思うんだけど、君は**どう思う?**

うーん。いや、ここはこうした方がいかな。例えば…。

おー、なるほど。ありがとう！
それじゃ、この場合は**どうなる?**

おー、
そうだね！
いい考えだね。

じゃあ、**ここは～になるのかな?**



【香川県立高松高等学校】



～をまとめると…だから、**〇〇はどうか?**

【高松市立牟礼小学校】

他者の考えを引き出す「問い返し」

「どう思う?」と**他者の考えを求める「問い返し」**をしたくなるには、どの教科においても児童生徒が明確な目的意識をもつことが必要です。

また、児童生徒自身が「問い返し」によって学習が深まったことを振り返ったり、教師も思考を促す問いかけをしたりすることで、その有用性を実感できるようにしましょう。

3 教師もアクティブ・ラーニングでつながろう！

次期学習指導要領で求められる教科横断的な学力の育成には、指導方法についての「**校内全教師による情報交流**」が不可欠です。また、資質・能力を系統的に育成するためには「**異校種間の教師による情報交流**」も大切です。

校内全教師間でできるアクティブ・ラーニング議論！

「グラフと表とを関係付けた説明は生徒にさせた方が…」
教科により、アクティブ・ラーニングの方法や有効性等に特徴があります。しかし、担当教科や学年が違っていてもアクティブ・ラーニングの在り方についての議論や情報交流は成立します。そのような校内研究を行うことが、教育活動全体で児童生徒の資質・能力を育成し、評価するための指針や体制づくり、組織運営の改善など、いわゆる「カリキュラム・マネジメント」を可能にします。

アクティブ・ラーニングについて**教師間で共通認識**をもち、**指導方法を共有**しておくことにより、児童生徒が授業の展開に戸惑うことなく、課題解決に向かうことにつながります。



【観音寺市立観音寺中学校】
授業前と授業後に検討会をもち、指導方法などを吟味

同地域の学校間で学びの連続性を！



よく話を聞いているね。でも、きちんと考えているのかな。



ざわざわしているわね。でも、課題について話しているのかな。



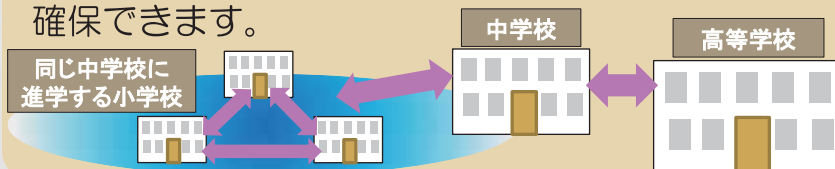
A…子どもは教師の方を向いて話を聞いています。しかし、積極的に聞いているのか受け身なのか分かりません。
B…子どもは何か話をしています。しかし、雑談しているのか、課題について発見を伝えたいのか分かりません。

児童生徒の学びの質を問うためには、外見の様相にとらわれず、主体性や協働性を捉えなければなりません。また、1時間の中で、AとBをどのように構成することが児童生徒の学びに効果的でしょうか。

このような学習者中心の学びの捉え方等について、校内はもちろん、同地域の「中高連携」、「小中連携」、「小小連携」等による**授業公開などの合同研修会**を行ってはいかがでしょうか。同地域の**学校間で共通認識**をもつことで、学びの連続性が確保できます。



【高松市立協和中学校】
校区の小学校教員が公開授業を参観



アクティブ・ラーニングの参考資料を香川県教育センターWebサイトに掲載していますのでご参照ください。また、研究についてのご相談等がありましたら、香川県教育センター教育研究課までご連絡ください。

KEC

〒761-8031 香川県高松市郷東町587-1
TEL 087-813-0931 (教育研究課 直通)
FAX 087-881-3270
http : //www.kagawa-edu.jp/educ/htdocs/



平成28年2月